

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2025年6月17日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第9回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門 2025.5.24 (土)～6.8 (日) ピアノ部門 2025.6.14 (土)～2025.6.29 (日)

第9回仙台国際音楽コンクール・ピアノ部門レポート

予選 3 日目 2025 年 6 月 16 日 (月)

音楽ジャーナリスト：須永 誠

第9回仙台国際音楽コンクールは6月16日、ピアノ部門予選3日目の審査が午前10時から、日立システムズホールで行われ、5カ国の8人が演奏した。これで出場者の予選の演奏は全て終了。午後6時すぎに、セミファイナルに進む12人が発表された。

この日はこれまで以上に多くの聴衆が詰めかけ、時間帯によっては空席が見つけないほど。客席の反応をうかがうと、予選を通して「推し」の演奏家を見つけた人もいたようにみえる。3日間の勢いそのままに、ピアノ部門は次のステージに進む。

3日目の大きな話題の一つは、日本の11歳の女性ピアニストの登場。仙台国際音楽コンクール史上最年少の出場者となった。優れた技巧ときらめく感性で、モーツァルトなどで清澄な演奏を披露、セミファイナル出場も決めた。聴衆の期待は一段と高まったようだ。

ピアノ部門のこれまでの最年少記録は第1回で3位に入賞したユジャ・ワンの14歳(当時)。ユジャ・ワンは、言うまでもなく、今では世界のトップピアニストの1人となった。

予選最終日は初日、2日目と同様、プログラムから出場者の強い意志と熱意が感じられた。3日目になって初めて演奏された作曲家はカプースチン、ヤナーチェク、ゴドフスキー、アルベニス、クルターグら。カプースチンは代表作「8つの演奏会用練習曲」から第4番「思い出」。クルターグが演奏されるのは仙台では非常に珍しく、曲目は「遊び」第3巻から「D. スカルラッティへのオマージュ」。スカルラッティのソナタと共に演奏された。

モーツァルトとベートーヴェンのソナタ計3曲もプログラムに載った。ストラヴィンスキーの「ペトルーシュカからの3楽章」とバラキレフの「イスラメイ」は2日続けて取り上げられた。

審査は午後4時半に終了。セミファイナルに進んだ12人は日本3人、韓国3人(うちアメリカ／韓国1人)、ロシア2人、香港、ドイツ、クロアチア、オーストラリア各1人。セミファイナルは20～22日に行われ、12人はモーツァルトの協奏曲第15～19番から選んだ1曲を、高関健指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団と演奏する。

セミファイナルに進めなかった出場者を対象とした公式の取り組みもスタートした。16日夜には出場者が審査委員と個別に面談してアドバイスを受ける「フィードバック・セッション」があり、19日に出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」が日立システムズホール仙台シアターホールで開かれる。16日はコンクールを支える市民ボランティアによる「日本文化体験イベント」も行われ、出場者が箏の演奏や茶道、書道、盆石、折り紙などを楽しんだ。

市民ボランティアは、出場者のサポートやホームステイ受け入れ、大会運営、広報宣伝などを広く担当する。ボランティアによる心を込めたもてなしは、コンクールの大きな魅力になっている。

